

第2回「県立高等学校整備構想（仮称）」検討委員会

日 時：平成20年11月19日（水）

午後1：30～

場 所：甲府城西高校

文化創造館

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

- (1) 全日制普通科（単位制）について
- (2) 全日制普通科（専門教育学科）について
- (3) 全日制普通科（コース制）について
- (4) 総合学科について
- (5) その他

4 その他

- (1) 次回日程について

県立高等学校整備構想（仮称）検討委員会座席表

眞田会長



進藤副会長



秋山 宏子 委員 ○

飯塚 武子 委員 ○

奥脇 義徳 委員 ○

川村 直廣 委員 ○

功刀 辰也 委員 ○

後藤正比古 委員 ○

○ 坂本 直子 委員

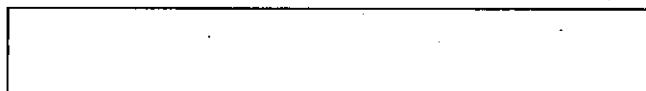
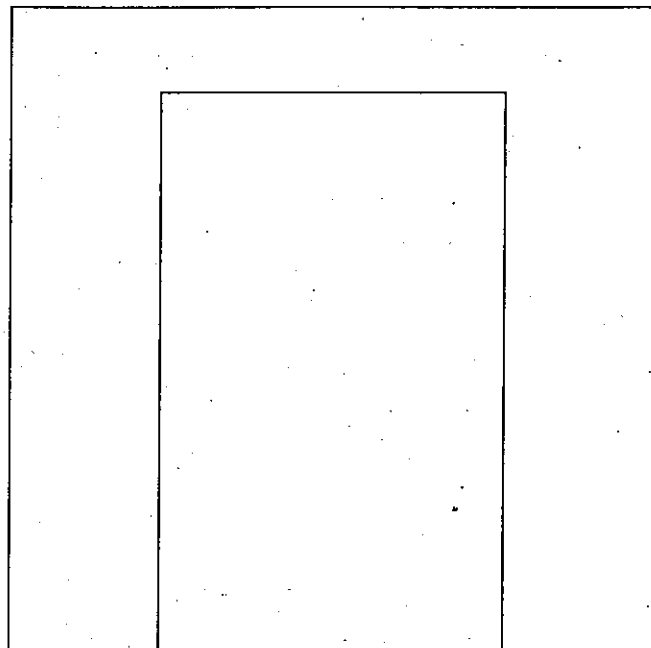
○ 清水 祝子 委員

○ 中込 文江 委員

○ 堀内十七三 委員

○ 山田 紀彦 委員

○ 和光 泰 委員



滝田
高校教育課長



広瀬
総務課長



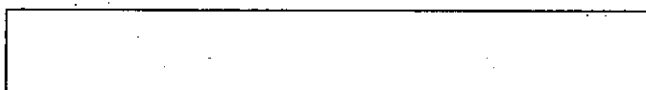
小川
理事



矢崎
新しい学校づくり
推進室長



八巻
主幹



神津
主幹



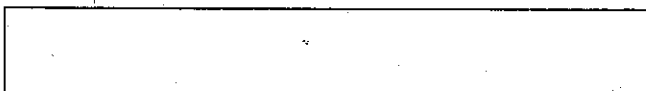
神津
学校施設課長



佐野
義務教育課長



保坂
副主幹



萱沼
主査



浅川
主査

全日制普通科（単位制）

単位制とは

学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度で、全日制課程における単位制高校の導入は、生徒の個に応じた教育を推進するため、生徒の選択幅を拡大することを趣旨としています。

（*以下、全日制普通科（単位制）を単位制高校と称する。）

現構想の内容

- ・単位制高校は、学年の区分を設けず、科目ごとの修得単位の合計で卒業を認定する制度です。
- ・学習習熟度の低い生徒や大学等への進学を目指す生徒など、能力や進路が多様となっている生徒に対応することができます。
- ・他校との学校間連携や専修学校での学習を容易にするなど、学校以外での学習の成果を積極的に活用することができます。
- ・転入学、再入学のときにも、前に在籍していた学校で修得した個々の科目の単位を自校の単位として認定するなど柔軟な対応が可能となります。
- ・固定的な教育課程の中で学習を希望する生徒もいれば、興味・関心に基づいた科目選択を中心とした学習を希望する生徒もいることから、普通科の特色づくりの一環として、弾力性に富んだ単位制高校を導入する必要があります。
- ・最初の単位制高校の開設は、全県的な通学の利便性が良いこと、生徒数が多く選択中心の学習を希望する生徒が相当数確保できること、学校数が多く単位制高校への改編によっても他の選択肢が残されることなどを考慮して、甲府学区の普通高校を平成9年度に改編することとし、以後も生徒のニーズや単位制高校の効果を見ながら、他の地域においても順次改編を進めることとします。

経緯

- ・甲府西高校（H9年設置）
- ・日川高校（H11年設置）
- ・都留高校（H14年設置）

全国の公立全日制単位制高校設置状況

学 科	校 数	割 合
総合学科	228	55.1%
普通科	135	32.6%
普通科・専門学科	26	6.3%
専門学科	10	2.4%
専門学科・総合学科	8	1.9%
普通科・総合学科	4	1.0%
普通科・専門学科・総合学科	3	0.7%
計	414	100%

（*校数は政令市を除く公立全日制）

過去の入学者選抜の状況

○入学者選抜

		H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
西 高	募集定員	280	280	280	280	280	280	280
	前期受検者数	157(56)	142(56)	129(56)	163(56)	119(56)	242(84)	189(84)
	後期受検者数	249(224)	279(224)	231(224)	281(224)	260(224)	195(196)	201(196)
日 川	募集定員	320	320	280	280	280	280	280
	前期受検者数	118(64)	131(64)	98(56)	84(56)	91(56)	166(84)	142(84)
	後期受検者数	260(256)	263(256)	247(224)	235(224)	243(224)	203(196)	200(196)
都 留	募集定員	280	280	280	280	280	280	280
	前期受検者数	108(56)	110(56)	60(56)	60(56)	60(56)	110(84)	82(84)
	後期受検者数	229(224)	225(224)	224(224)	222(224)	241(224)	202(196)	219(199)

※平成14年度～平成18年度の前期受検者数は推薦入試受検者数、()は募集人員を示す。

現状と課題

- ・平成19年度実施の高校改革アンケートによると、単位制高校に「満足している」、「まあ満足している」と回答した割合は、在籍している高校1年生の72.5%、その保護者の88.3%で、満足度は高いものがあります。
- ・単位制高校の設置に関しては、「すぐに設置した方がよい」、「将来的には設置した方がよい」の割合は合計43.9%で、「どちらとも言えない」とする割合が42.6%であることから、設置については設置を望む意見と現状でよいとする意見に分かれています。
- ・「県立高等学校の整備に関するアンケート」調査によると、今後整備を進める必要がある高校として、「広く科目を選んで学習することができる普通科の高校」を希望する人数は、6,066人中3,938名（複数回答）あり、科目選択幅の拡大を求める回答が多くなっています。
- ・本県の単位制高校は進路希望調査や受検倍率をみると、志願者数が多く、ニーズが高いものがあります。
- ・単位制高校は生徒の個に応じた教育を推進するため、生徒の選択幅を拡大することを狙いとしていることから、生徒の実態や学校の状況等を踏まえつつ、単位制の趣旨にそった学校運営に一層努力することが期待されます。

新たな構想における論点

生徒の個に応じた教育に対応できる有益な制度であるとの観点から、本県における単位制高校のあり方及び今後の設置の方向性は如何にあるべきか。

全日制普通科（専門教育学科）

専門教育学科とは

「専門教育学科」は特定の分野に強い興味や関心を持ち、その学習に相應の能力・適性を持った生徒を対象として設置されており、卒業までに専門科目に属する科目の中から、25単位以上履修することが義務づけられています。

「専門教育学科」という名称は、本県独自の名称であり、本来は、農業科・工業科・商業科等と同じ専門学科です。現在本県には、理数科、英語科、文理科、国際教養科の4科が設置されていますが、専門教育に関する教科に文理及び国際教養はなく、文理科は理数科、国際教養科は英語科の専門科目を学ぶこととしています。

- 理数科・・・理科や数学に強い興味や関心を持ち、その学習に相應の能力・適性を持った生徒を対象に、実験や演習の時間を多くとることによって、理科や数学の内容を深く学習する。ものごとを科学的に考察したり、処理したりする能力を高めるとともに、自然科学や数学を研究する態度を身に付けさせるような教育を行う学科。
- 英語科・・・英語や英語を主要なことばとする国々の文化等に強い関心や興味を持ち、それに相應する能力・適性を持った生徒を対象としている。英語を学ぶ時間を多くすることによって英語の基本的な力を身に付け、また外国の人々の生き方や考え方を理解し、将来それぞれの分野において、国際通用後である英語を使って活躍できる能力を養うための教育を行う学科。
- 国際教養科・・・豊かな国際感覚を養い、生きた英語の力を身につけ、広い視野と豊かな個性を持ち、国際社会で幅広く活躍できる人材を育成することを目的とした学科。
- 文理科・・・理科・数学あるいは英語・地理歴史・公民に強い関心・興味を持ち、その能力を伸ばしたいと希望する生徒を対象に、基礎学力の養成に加え、文系又は理系の分野について深く学び、科学的思考力や情報化・国際化に対応しうる能力を養い、将来様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする学科。

現構想の内容

- ・専門教育学科は目的意識の明確な生徒の希望に応えるとともに、普通高校に併設することにより、普通高校の特色づくりの一端を担うものです。
- ・中学生の希望の状況を勘案し、生徒の通学の利便性を考慮した6つのブロックごとに生徒の選択肢を広げるため、既設の7校と合わせブロックに2校ずつとなるように、生徒のニーズや学科のバランスに考慮しながら、平成9年度に5校設置します。
- <平成15年7月 第2次新しい高校づくり課題研究協議会>
 - 設置方針は、今後とも「1ブロックに2校」とする。
 - ブロックは、総合学科高校の設置方針と同様に、6ブロックを5ブロックとする。
 - 入学者が恒常的に30人を下回るような場合は、見直しが必要。
 - 設置に当たっては、学科の配置バランスと併せて、生徒のニーズ等についても考慮する必要がある。
 - 山梨高校または塩山高校のいずれか1校に設置。
- <平成16年3月 第2次新しい高校づくり課題研究協議会>
 - 峡東ブロックの専門教育学科については、総合学科の設置と併せて検討すること適当である。

経緯

- ・S53年度以降、普通高校に併設して「専門教育学科」を配置してきました。
- ・平成9年度に5校増設して12校を配置しました。

ブロック	設置校及び設置学科	
峡北	H 9 峡北高校 (理数科)	H 9 葦崎高校 (文理科)
峡中	S53 甲府南高校 (理数科)	H 3 甲府第一高校 (英語科)
峡南	H 9 身延高校 (理数科)	S63 市川高校 (英語科)
峡東	S53 日川高校 (体育科) 廃止	H 9 石和高校 (国際教養科)
北都留	S53 都留高校 (理数科) 廃止	H 9 上野原高校 (英語科)
南都留	H 3 吉田高校 (理数科)	S63 桂高校 (英語科)

- ・日川高校の体育科：平成11年度から単位制に改編とともに募集停止（廃止）。
- ・都留高校の理数科：平成14年度から単位制に改編とともに募集停止（廃止）、同校の単位制改に併せて周辺校の活性化を図るため、上野原高校の英語科を理数科に、桂高校の英語科を文理科に改編。
- ・峡北高校の理数科：平成13年度、新設の北杜高校に継承。

過去の入学者選抜の状況

高等学校名	専門教育学科	入学許可予定者数/定員									
		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
峡北	理数	32/40	35/35								
北杜	理数			34/40	31/35	33/35	30/30	25/30	28/30	21/30	19/30
葦崎	文理	38/40	40/40	38/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	38/40
甲府第一	英語	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40
甲府南	理数	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40
市川	英語	39/40	40/40	40/40	39/40	40/40	40/40	39/40	32/40	36/40	40/40
身延	理数	30/30	30/30	30/30	24/30	30/30	29/30	30/30	29/30	30/30	24/30
石和	国際教養	28/40	35/35	33/35	35/35	35/35	35/35	31/35	35/35	17/35	27/35
都留	理数	40/40	40/40	40/40							
上野原	英語	30/30	29/30	29/30							
	理数				23/30	24/30	15/30	23/30	25/30	23/30	16/30
桂	英語	40/40	37/40	34/40							
	文理				27/35	30/30	21/30	26/30	30/30	19/30	30/30
吉田	理数	40/40	40/40	40/40	40/40	39/40	39/40	40/40	40/40	37/40	40/40

*網掛けは定員割れ

現状と課題

- ・入学者の状況を見ると、設置している10校の内、平成16年度は4校、平成17年度は5校、平成18年度は4校で定員割れを起こし、全県一学区に移行した平成19年度は6校、平成20年度は5校と県境の高校等で希望者が少ない状況にあります。
- ・原因として、県境では中学卒業生数の減少により、専門教育学科で学ぶのに適性のある生徒が減少していることが指摘されています。
- ・入学している生徒の学力は高く、H20年3月卒業生の進路状況を見ると、4年生大学への進学率は77.6%と高い数値であり、進学面で学校の特色づくりの一端を担っています。(普通科63.8%)
- ・平成20年度実施の「県立高等学校の整備に関するアンケート」の調査結果によると、今後整備して欲しい高校として、理数科、英語科などがある普通科高校を希望する人数は、6,066名のうち、1,428名であり特に高い希望があるというわけではありませんが、入学した生徒とその保護者を対象とした平成19年度実施の高校改革アンケートでは、「満足している」、「まあ満足している」と回答した割合は高校1年生で87.5%、その保護者で82.5%と高く、専門教育学科に対する評価は高いものがあります。
- ・専門教育学科は、それぞれの専門科目を多く履修することにより専門性を高めることに目的がありますが、結果として高熟度クラスと変わらないのではないかと指摘があります。

新たな構想における論点

今後専門教育学科の使命を検討する中で、学校の特色づくりとしてどのような基準で再配置を進めていくべきか。

全日制普通科（コース制）

コース制とは

普通科のコース制は、専門教育学科に準じ、入学時から卒業時まで学習の方向を一貫することで、特定の分野に関心、適性を持つ生徒を育成する制度です。

現構想の内容

コース制は、各学校の特色づくりを進める方策として導入することから、コースを希望する学校と協議して設置していきます。

専門教育学科、コース制とも特定の教育内容に重点を置くことにより、学校の魅力づくりを推進しようとするものであることから、当面は、原則として、専門教育学科を設置していない学校に、1つのコース（40人）を平成9年度に設置することとし、以後、コース制の効果を見ながら、学校の希望や生徒のニーズを踏まえて増設を図っていきます。

経緯

- 平成9年度に導入したコース

高校名・コース名	高校名・コース名	高校名・コース名
甲府東 [理数コース]	甲府昭和 [科学コース]	白根 [国際文理コース]
巨摩 [理数コース]	塩山 [英数コース]	山梨 [英語総合コース]
日川 [理数コース]	富士河口湖 [英数コース]	

- 平成11年：日川の理数コースは、単位制改編により募集停止。
- 平成18年：甲府昭和の科学コース募集停止。

現状と課題

- 平成9年の導入以来、甲府東高校の理数コースを除き、いずれかの高校で欠員が生じています。
- 各高校では、授業時数を増やすなど創意工夫を行い、コース制の特色づくりを行っているが、専門教育学科に比べ、教育課程上、普通科との差別化が図りにくいことや、コース名から教育内容が分かりにくいとの指摘があります。
- コースに欠員が生じた学校ではコース以外のクラスを大きくしなければならない状況にあります。
- 普通科の特色づくりの方策としてコース制を継続するためには、コースの名称、学習内容、募集方法等全般にわたり学校の実情にあわせた柔軟な見直しが求められています。

新たな構想における論点

全県一学区の中で普通科の特色づくりをなお一層推進する方策として、コース制をどのように見直していくべきか。

過去の入学者選抜の状況

高等学校名	コース名	入学許可予定者数/定員											
		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
甲府東	理数	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40
甲府昭和	科学	40/40	36/40	39/40	26/40	17/40	11/40	8/40	2/40	2/40			
巨摩	理数	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	38/40	40/40	40/40	40/40	40/40	37/40	31/40
白根	国際文理	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	28/40	40/40	40/40	40/40	28/40	30/40	32/40
山梨	英語総合	41/40	40/40	24/40	33/35	35/35	30/35	23/35	30/30	30/30	30/30	24/30	30/30
塩山	英数	40/40	35/40	20/40	35/35	35/35	29/35	35/35	30/30	30/30	30/30	28/30	30/30
富士河口湖	英数	40/40	40/40	40/40	39/40	40/40	35/40	40/40	40/40	31/40	36/40	30/40	11/40
日川	理数	40/40	40/40										

*網掛けは定員割れを表す。

総合学科

総合学科とは

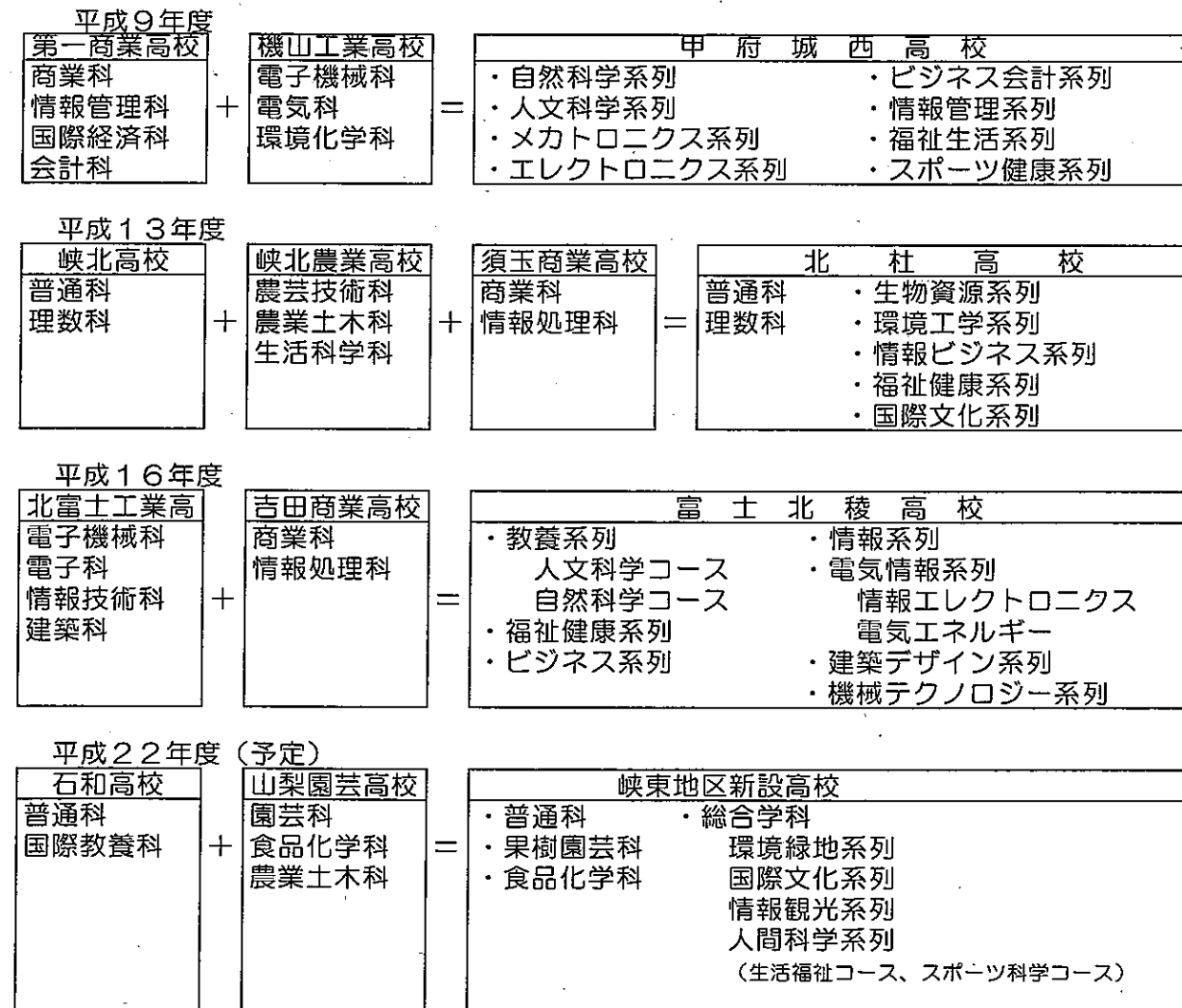
- ・生徒自らの適性や進路などに応じた主体的な学習計画に基づいて、幅広く開設された普通科目と専門科目の中から選択して学習できる学科です。
- ・原則履修科目「産業社会と人間」をとおして、生徒一人ひとりが自分の将来就きたい職業や生き方について学びます。
- ・生徒の進路に合わせた科目選択ができるよう「系列」を設け主体的な学習を促します。

現構想の内容

科目選択や高校入学後の進路決定に対する生徒のニーズを考慮すると、総合学科は、普通科、専門学科と並んで、質、量ともに高校教育の重要な部分を占めることが期待される学科であり、全体的に設置を進める必要があります。最初の設置校は、通学の利便性、生徒数、学校数を考慮して、平成9年度に甲府地区に設置することとします。さらに、通学の利便性に配慮したブロックを考慮しながら順次設置を進めていきます。

また、総合学科高校は、相当な規模が必要ことから、学校統合を視野に入れる必要があります。開設科目は、改編する学校を基礎としながら、社会の変化に対応できる複合的な系列を設けられるように学校と協議して決定します。

経緯



全国的な設置状況

平成19年度までの設置状況は、公立で285校、私立で32校、国立で2校となっています。

*公立高校の設置状況

H11年度迄	109校	H13年度迄	140校	H15年度迄	187校
H17年度迄	251校	H19年度迄	285校		

<平成19年度文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況」調査>

過去の入学者選抜の状況

		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
北杜	募集定員	140	140	140	140	140
	前期募集受検者数	49(42)	35(42)	42(43)	79(56)	93(56)
	後期募集受検者数	131(98)	140(105)	132(98)	120(84)	104(84)
城西	募集定員	280	280	280	280	280
	前期募集受検者数	105(84)	90(84)	112(84)	134(112)	196(112)
	後期募集受検者数	242(196)	259(196)	250(196)	248(168)	206(167)
北稜	募集定員	280	280	280	280	280
	前期募集受検者数	48(84)	49(84)	61(84)	63(84)	87(84)
	後期募集受検者数	245(232)	225(231)	236(219)	199(198)	209(196)

※平成14年度～平成18年度の前期募集受検者数は推薦入試受検者、()は募集人員を示す。

総合学科卒業後の進路状況

(学校基本調査)

	大学	構成比率	専修学校・各種学校等			構成比率	就職	構成比率	その他	率	卒業者数
			専修校	その他	計						
平成14年度	63	21.6%	111	14	125	43.0%	100	34.4%	3	1.0%	291
平成15年度	43	15.0%	104	7	111	38.7%	116	40.4%	17	5.9%	287
平成16年度	96	22.7%	150	22	172	40.8%	110	26.1%	44	10.4%	422
平成17年度	90	20.4%	148	34	182	41.3%	121	27.4%	48	10.9%	441
平成18年度	100	22.7%	168	19	187	42.4%	118	26.8%	36	8.2%	441
平成19年度	147	22.2%	228	23	251	37.9%	226	34.1%	38	5.7%	662

現状と課題

- ・多様な系列を設置し、生徒の多様な進路希望に応えてきました。
- ・入学希望者も多く、これまで高い倍率で推移しています。平成20年9月実施の中学生進路希望調査によると、北杜高校は1.20倍、甲府城西高校は1.48倍、富士北稜高校は1.18倍に上っています。
- ・平成19年度高校改革アンケートによると、総合学科については「すぐに設置した方がよい」「将来的には設置した方がよい」の割合は全体の55.2%にのぼっています。
- ・また、入学した高校1年生の総合学科に「満足している」「まあ満足している」と回答した比率は69.3%です。
- ・(専門教育学科：87.5%、普通科：74.4%、単位制普通科：72.5%)
- ・「県立高等学校の整備に関するアンケート」結果によると、これから整備が必要と考える高校として、「普通科目や職業教育に関する科目を選んで学習することができる高校」を希望する人数が3,156名と全体の52%(複数回答)にのぼっています。
- ・総合学科では専門性が薄くなるとの指摘があります。
- ・生徒の実態や社会情勢の変化に対応した系列及び科目の見直しをおこなう必要があります。

新たな構想における論点

多様な生徒のニーズに応え、新しいタイプの高校として導入した総合学科の設置を、今後普通科の単独改編を含めどのように推進していくべきか。